

平成24年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	世界トップレベル研究拠点プログラム		担当部局庁	研究振興局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成19年度～		担当課室	基礎研究振興課	基礎研究振興課長 安藤 慶明			
会計区分	一般会計		施策名	VII-3 科学技術システム改革の先導				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、 通知等	第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定) 日本再生の基本戦略(平成23年12月閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	近年、優れた頭脳の獲得競争が世界的に激化している中で、我が国が科学技術の力で世界をリードしていくためには、優秀な人材の世界的な循環の「環」の中に位置付けられ、内外の研究人材が自然に蓄積されるような研究機関を我が国にも作っていくことが必要である。本事業においては、世界的な著名研究者を拠点長として責任者に位置付け、その下に高いレベルの研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点を構築することを目指す。							
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	本プログラムは、大学等を対象とし、高いレベルの研究者を中核とした拠点形成を目指す構想に集中的な支援を行う。研究対象は、基礎研究分野(基礎から応用への展開を目指す分野を含む。)で、複数の分野にまたがる融合領域とする。5年ごとの評価を経た上で、1拠点当たり年間約13～14億円の支援を10年間(特に優れた拠点については15年間)行う。本プログラムは研究費を提供するプログラムではなく、拠点形成のための基盤的経費を支援するものであり、各拠点には国からの支援額と同程度以上の研究費等のリソースを別途確保することを求めている。本補助金は機関に対する定額補助となっている。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	7,109	7,283	8,125	8,925	9,769	
		補正予算	2,000	-	-	-	-	
		繰越し等	▲ 133	17	117	-	-	
		計	8,976	7,300	8,242	8,925	9,769	
		執行額	8,974	7,299	8,241	-	-	
	執行率(%)	100.0%	100.0%	100.0%	-	-		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (32年度)	
	拠点数		成果実績	拠点数	5	6	6	約10
	※拠点数毎の達成度は、5年毎に中間評価を実施し、プログラムの趣旨に添った拠点となっているか厳正な評価を行う。		達成度	%	約50	約60	約60	-
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	研究者数		活動実績	人	813	935	981	-
	主任研究者数		活動実績	人	125	153	154	-
研究者に占める外国人研究者の割合		活動実績	%	42	44	40	-	
				()	()	()		
単位当たり コスト	研究者一人当たりのコスト 816万(円/人)		算出根拠	単位当たりコスト=平成23年度補助金額8,006百万円/研究者数(平成23年度実績)981人				
平成 24 ・ 25 年度 予算 内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	国際研究拠点形成促進事業費補助金	8,791百万円	9,606百万円	新規拠点数(WPIフォーカス)通年化による増。				
	科学技術総合研究委託費	131百万円	159百万円					
	職員旅費・庁費	3百万円	3百万円					
	計	8,925百万円	9,769百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	第4期科学技術基本計画において「世界トップレベルの基礎研究の強化」の必要性が明記されるなど、政策の優先度が極めて高い事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	補助金の支出先の選定にあたっては、外国人3割以上を含む外部有識者から成るプログラム委員会において、厳格な審査を行っている。事業委託の支出先の選定にあたっては、十分な公告期間を確保した上で公募(企画競争)を実施しており、その妥当性や競争性を確保している。経費の執行に関しては、事業年度毎に実績報告書等において、使途の把握、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認するとともに、現地調査等により実態を把握している。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	-	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	本事業では、下述の複層的かつきめ細やかなフォローアップを実施しており、各拠点がこれらに真摯に対応することにより、毎年の改善に繋げることに成功している。また、研究成果等については、広く一般に周知できるよう、アウトリーチ担当者会議を設置し、研究コミュニティはもちろんのこと広く社会・国民に対する戦略的な組織的なアウトリーチ活動を行うよう努めている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	-	※類似事業名とその所管部局・府省名	
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	<p>大学の学長や、学長経験者、ノーベル賞受賞者、産業界、そして著名外国人有識者3割以上を含むプログラム委員会(委員長:井村裕夫[元京都大学総長])において、プログラム・ディレクター(PD)及び各拠点のプログラム・オフィサー(PO)が行う報告及び各拠点長やホスト機関長等からのヒアリングを基に、毎年厳格な評価を行っており、手厚いフォローアップを実施している。フォローアップは、各拠点による自己評価書の提出、PD及びPOに加えて外国人研究者を半数程度含む専門家から構成される作業部会によって実施されるサイトビジット等を通じた丁寧な進捗状況の把握、そしてそれら全てを踏まえた上で実施される上記のプログラム委員会による専門的な助言及び指導というように、複層的かつきめ細やかに行われている。</p> <p>現状としては、本フォローアップによる助言及び指導等に真摯に対応することにより、毎年の改善に繋げることに成功している。平成23年度には平成19年度に採択された拠点について中間評価を行い、世界トップレベル研究拠点の構築をより確実なものとするための助言及び指導を実施した。</p> <p>※なお、本事業は事業仕分け第3弾の評価結果を受け、平成23年度予算より非競争的資金として整理されている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点:本事業は、国の内外から高いレベルの研究者が集結する世界トップレベルの研究拠点の形成を目指すものであり、事業成果等の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見:本事業は、毎年実施している手厚いフォローアップ等により、世界トップレベル研究拠点の構築をより確実なものとするための助言及び指導がなされていることは評価できる。なお、引き続き、事業の効果的な実施を目指し、事業成果の検証を行うべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	本プログラムにより採択された拠点に対しての調査について効率化を図り、概算要求に▲0.5百万円反映した。		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>【事業仕分け第1弾の評価結果】</p> <p>事業番号・事業名: 3-22 競争的資金(外国人研究者招へい)(世界トップレベル研究拠点(WPI)プログラム)</p> <p>WGの評価結果: 予算要求の縮減</p> <p>とりまとめコメント: 世界トップレベル研究拠点(WPI)プログラムについては、廃止2名、予算計上見送り1名、予算要求通り1名、予算要求の縮減7名で、縮減のうち半額縮減が2名、1/3縮減が4名、その他1名との内訳であった。この中では、新規要求の拠点については実施しないという意見があった。当WGは、予算要求の縮減を結論とする。</p> <p>【事業仕分け第3弾の評価結果】※「とりまとめコメント」については、WPIに関するコメントが無いため省略</p> <p>事業番号・事業名: A-24 競争的資金</p> <p>WGの評価結果: (制度)見直しを行う (予算)予算要求の縮減(1割程度)</p> <p>【事業紹介ホームページ(文部科学省ホームページ)】 http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/toplevel/index.htm</p> <p>【事業紹介ホームページ(日本学術振興会ホームページ)】 http://www.jsps.go.jp/j-toplevel/index.html</p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0207	平成23年行政事業レビュー	0222

文部科学省
8,241百万円

職員旅費・庁費 2百万円

を含む

世界的な著名研究者を拠点長として位置付け、その下に高いレベルの研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点を形成することを目指す。



【公募・補助】

【企画競争・委託】

A.世界トップレベル研究拠点プログラム事業
大学、独立行政法人
全：6機関 8,123百万円

採択された大学及び独立行政法人へ、世界トップレベルの「目に見える」研究拠点の形成に必要な補助金を交付する。

B.世界トップレベル研究拠点プログラム支援事務
日本学術振興会
116百万円

プログラムを効率的・効果的に推進していくため、拠点の採択に必要な審査・プログラムの実施に必要な評価、プログラム管理業務を委託する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：百万円)

A. 東京大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	拠点長、事務部門長及び主任研究者等給与	742			
事業推進費	招へい研究者の研究環境整備のための経費、国際シンポジウム開催等	639			
旅費	学会への出席に伴う国内旅費・外国旅費、招へい旅費、赴任旅費等	43			
計		1,424	計		0
B. 日本学術振興会			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
業務実施費	旅費(国内旅費、外国旅費、外国人等招へい旅費、招へい外国人滞在費)	34			
	諸謝金(プログラム委員等への諸謝金)	26			
	その他(消耗品、通信運搬費、会議開催費、印刷製本費、電子計算機諸費、雑役務費(事務補助員雇上、アンケート調査))	16			
		12			
人件費	担当職員給与	17			
一般管理費		11			
計		116	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A. 大学、独立行政法人

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東京大学	カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)	1,424	-	-
2	九州大学	カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I2CNER)	1,370	-	-
3	大阪大学	免疫学フロンティア研究センター(IFReC)	1,355	-	-
4	物質・材料研究機構	国際ナノアーキテクトゥクス研究拠点(MANA)	1,354	-	-
5	京都大学	物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)	1,315	-	-
6	東北大学	原子分子材料科学高等研究機構(AIMR)	1,304	-	-

※ 補助事業、四捨五入により合計額は一致しない。

B. 独立行政法人

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本学術振興会	プログラムの審査・管理・評価に関する業務	116	企画競争	-